

## 第2章-3. イスラーム

### <成立>

6世紀、国際中継貿易で、アラビア半島の商業都市メッカ、メディナの繁栄

◎創始者 ムハンマド (マホメット、メッカの商人、570頃～632)

610 初めて唯一神 アッラー の啓示を受ける  
一神教・偶像崇拜禁止の新しい教えを説く

イスラーム ……アラビア語で「唯一神への絶対服従」の意味  
イスラム信者＝ ムスリム、その共同体＝ ウンマ

622年7月16日 ヒジュラ (聖遷) ……迫害をうけメッカからメディナ移住

630 メッカ奪回。アラビア半島及びアラブ人をイスラム教によって統一。

632 ムハンマド死

ジハード (Jihad、聖戦) →中央アジアから北アフリカまで広がる教団国家形成。  
※「Jihad」の本来の意味は「(神のために)奮闘努力すること」

### <聖典コーラン>

▶ コーラン (クルアーン) (al' Quran) ……「the 読み唱えるもの」の意味  
他国語に翻訳しないでアラビア語のままで唱える。  
(アラビア語で韻を踏んだ詩になっているから)

内容＝神がムハンマドに下された啓示を記したもの

イスラム教徒の生活上の規範＝ シャリーア

結婚や離婚、相続に関する規定、飲食を含む生活規範、犯罪に対する処罰など、  
宗教観としては、「現世的価値は虚しい」「来世の永遠の生こそが重要だ」、  
などと述べられている。

<六信五行> イスラム教徒の信仰と行動のもっとも根本となるもの。

▶ 六信 ……①神、②天使、③啓典、④預言者、⑤来世、⑥天命 この6つを信ずる

▶ 五行 ……次の5つのことを行う

①. 信仰告白 (シャハーダ)

「アッラーの他に神はない。ムハンマドはその使徒である」と唱えること。

②. 礼拝 (サラート)

普通は1日5回…・夜明け、正午すぎ、午後遅く、日没、就寝前  
礼拝が行われる場所をモスク (アラビア語ではマスジド) という。

必ず水で顔・手・足を清めてから行う。(水がなければきれいな砂で)

### ③. 断食（サウム）

イスラム暦の第9月（ラマダーン月）の1ヶ月間、  
日の出から日没まで飲食禁止。水もダメ。唾液も飲みこんではダメ。  
イスラム共同体の苦しみの共有のために行う。  
よって、子供・妊産婦・身体虚弱者・戦場にある兵士は除外。

### ④. 喜捨（ザカート）

貧者のために施すという富者の義務。  
現代では、制度化された救貧税（収入の約2.5%）。  
また、民間団体のザカートもさかん。

### ⑤. 巡礼（ハッジ）

一生に一度、聖地メッカへ行く。（体力と財力がある者だけでよい。）  
イスラム暦12月に行われる ⇔ それ以外の小巡礼（ウムラ）とは区別される  
メッカはイスラーム教徒以外の立入禁止、市内全域が聖地である。

## <その他、偏見を防ぐための知識>

- ▶ 対等に扱う条件で妻を4人まで持ってよい→戦争未亡人救済が当初の目的  
他の、女性蔑視と誤解されている服装などの規定も、女性を保護することが目的
- ▶ 豚肉を食べてはいけない。→衛生上の問題か？
- ▶ 飲酒、賭け事は重罪。（現代では、厳しい国とそうでない国があるが）
- ▶ 利息をとることを禁止＝弱者救済  
（ユダヤ教と対立するようになった際、ユダヤ商人が利息で儲けているのを批判した）

## <イスラムとユダヤ・キリスト教との比較対照>

※ムハンマドは、ユダヤ教・キリスト教の影響を受けてイスラム教を開いた。  
メディナに住んでいた頃、ムハンマドは礼拝の方角をエルサレムにしていた。  
これらと対立するようになったあとも、神との契約を結んだ「啓典の民」として、特別扱い。

- ▶ どれも同一の唯一神…… ヤハウェ = キリスト教の Deus = アッラー
- ▶ アブラハム……ユダヤ教・キリスト教では、全イスラエル人の祖  
→イスラムでは、これに加えて全アラブ系民族の祖でもある。  
アラビア語名「イブラヒム」として「5大予言者」の一人  
イブラヒム、ノア、モーセ、イエス、ムハンマド
- ▶ 最後の審判……イスラムにも最後の審判はある。ただしアッラー自らが行う
- ▶ 原罪……アダムとイヴの物語に由来する。ユダヤ・キリスト教にはある。  
⇔イスラムには無い！（アダムとイヴの罪を、その子孫である人間が負うことはない）
- ▶ 天国……イスラムにもある
- ▶ イスラムの五行は、すべてキリスト教にも見られる  
しかし「断食」については一部の宗派のみ